

宝篋印塔

墓塔、供養塔の一種で、もともとは宝篋印陀羅尼經を納めるために使われていたという。先端のとがった部分を相輪というが、その下に見える四隅がとがった隅飾りがこの石造の特徴である。ばくち打ちは、この隅飾りを縁起を担ぐために欠いて持ち帰ったとも聞く。時代が下ってくるに従って、隅飾りは花びらのように外に開いてくる。



川島 友川裏の宝篋印塔



保田の宝篋印塔



川島八幡神社横の宝篋印塔